

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 愛知教育大学附属高等学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
所在地 〒 448-8545  
愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1  
E-mail admin-hs@m.auecc.aichi-edu.ac.jp  
Website <http://www.auehs.aichi-edu.ac.jp/>  
幼児児童生徒数 男子 219 名 女子 378 名 合計 597 名  
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「他者と関わることを通して多様な価値観を育む」を活動テーマとして、ESD 活動に取り組んでいる。

具体的には、①国際理解に関わる学習・活動、②地域の文化、自然に関わる学習や地域での交流活動を行った。

### ① 国際理解に関わる学習・活動

・平和や貧困について”届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加することを通して、紛争や難民についての学習を行い、子ども服の回収活動に取り組んだ。

・書き損じ葉書の回収を行うことで、学校に通い、学ぶことが個人にとっても社会にとってもどれほど貴重で、社会の平和や秩序を維持するために大切なことであるかを学んだ。

・沖縄への修学旅行に際して、戦中・戦後の沖縄の状況を学び、現在の基地問題や世界平和についての理解促進に努めた。

- ・オーストラリア（メルボルン）のアイバンホー・グラマー・スクールとの相互交流（語学研修）を通して、言葉も価値観も異なる同世代と交流を深めることで他者についてだけでなく自分たちについても相対化する力を養った。
- ・「総合的な学習の時間」などでの日々の学習成果を自分の言葉として、「第 64 回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール中央大会」で他の高校生に向けて話した。



”届けよう、服のチカラ”プロジェクトの学習の様子



第 64 回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール中央大会でのスピーチの様子

## ② 地域の文化・自然に関わる学習や地域での交流活動

- ・学校のある地区の資源回収、特別天然記念物であるカキツバタ自生地の保全活動、刈谷病院の地域交流会等々のボランティアに参加して、自分たちの属する地域社会がどのようなものなのかを、そこに暮らす人々、自然や文化に直接することで深くまた身近なものとして理解するようにした。



井ヶ谷地区資源回収ボランティアの様子



刈谷病院「あったかハートまつり」ボランティアの様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他( 休日、長期休業中のボランティア活動 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

”届けよう、服のチカラ”プロジェクト
--------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

現在のところ、本校の教育課程（指導計画）の中にユネスコスクールの活動自体を明確な形で取り入れることはできていない。学習時間としては「総合的な学習の時間」の中に積極的に組み入れて行うことが多く、そこでは多様な活動・体験ができるように努め、座学に終わらないようにしている。また可能な限り、教科との連携を模索して、それぞれの経験と知識とが繋がるようにしている。ただし、この点に関しては模索段階の部分が多いので、これまでの連携を見直すことで、できていなかった教科への応用の可能性を探りたいと考えている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールとしての活動は、全体的な取り纏めを校務分掌の1つである研究部が管轄しており、個々の活動に応じて、学年や生徒会などと協力して行っている。ただ、年間の活動が決まったものとなってきており、活動にかかわる教員が固定化してきているので、今後は教員間の理解促進などのために情報共有を行う場所を設けるなどしていきたい。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

現在、ESD活動、更にはユネスコスクールそれ自体を単体で学校内の活動として評価をする状態にはなっていないが、その具体的な活動である、ボランティアや国際交流などについては学校評議委員会などで報告を行い、本校の活動として一定評価を得ていると考える。今後はESD活動、ユネスコスクールを評価項目するように検討していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

特になし

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)  
※チェック事項 2-3 に対応

愛知教育大学地域連携センター、ESDコンソーシアム愛知、刈谷市社会福祉協議会などからの情報提供や具体的なボランティア活動などの諸活動の提示を受けて校内のESD活動に活かしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)  
※チェック事項 2-4 に対応

現時点では特に活動を想定していないが、今後の課題として検討をしていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

特になし

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

第 1 には、本年度までの反省点を踏まえて、これまでの活動を継続、発展させていくことを目標とする。具体的には総合的な学習の時間の利用についての有効利用と他の活動との調整をして、どのような活動をどれくらいできるのかの見直しを図る。

第 2 は、新規の活動に取りかかることを目標とする。特に高校生同士の交流が手薄な状態なので、学校間での交流、高校生の交流の場への積極的な参加を行っていきたい。

第 3 は、生徒の自主的な参加による活動が一部の意欲のある生徒の活動に終わっているところもあるので、学校全体の活動となるように生徒へ積極的な参加を促していくことを目標としたい。